前中期経営計画の総括と今後の取り組み

前中期経営計画「TRANSFORM 2020」(2017年度~2019年度)では、高収益体質への変革を目指して、 「高い顧客価値の創造」と「組織的な生産性の向上」を推進しました。その総括をご報告するとともに、 今後の取り組みについてご紹介します。

TRANSFORM 2020 高収益体質への変革 基本方針 6つの重要課題 コア事業のさらなる成長 地域別事業展開の強化 新規事業の創造 高い顧客価値の創造 組織的な生産性の向上 技術開発力の強化 世界トップクオリティの追求 企業体質の強化

高い顧客価値の創造

2017年4月以降、当社初となる超音波診断装置やスポッ トチェックモニタなど、顧客価値の高い自社製品を数多く投 入しました。特に、念願の自社製人工呼吸器を発売できたこ とは最大の成果と考えています。軽症患者さん向けのマス ク型人工呼吸器 NKV-330と、重症患者さん向けの気管挿 管型人工呼吸器 NKV-550です。また、当社初のクラウド型 のビジネスモデルとして、在宅医療向けの医療介護ネット ワークシステム LAVITA®の提供を開始しました。IoTを活 用した付加価値サービスである医療機器リモート監視シス テム MDリンケージの提供も開始しました。今後、対応する 機器のラインアップを拡充する予定です。

高い顧客価値の創造に取り組んだ結果、自社品売上比率 は65.6%、消耗品・サービス事業の売上比率は45.5%へ上 昇し、売上総利益率の改善につながりました。

	2016年度	2019年度
自社品売上比率	63.1%	65.6%
消耗品・サービス 売上比率	42.8%	目標 実績 45% 45.5%

ITソリューション事業

消耗品・サービス事業

MD Linkage

顧客価値の高い自社製品の投入 2017年度~2019年度の主な新製品*1







※1 CSM-1500/1700、PVM-4000、SVM-7200、NKV-330は日本・海外発売済み。NKV-550は海外のみ、その他は日本のみ。 ※2 日本ではコンティニアス・モード限定。

2 組織的な生産性の向上

富岡生産センタにおける生産効率の改善に取り組むとと もに、2019年には東日本物流センタを設立、国内物流体制 の再編によりタイムリーな製品供給と物流コストの削減を 図りました。グループ全体では、米国、欧州、中国に続き、中 近東、韓国、インド、メキシコにERP(基幹業務システム)を導 入し、グローバルなサプライチェーンの構築を進めました。 また、ICTを活用した業務プロセス改革に取り組み、本社と 国内支社支店間の業務のスリム化を図りました。

●TRANSFORM 2020の総括

最終年度にあたる2019年度は、国内売上高は、顧客価値 提案型営業スタイルへの変革に注力した結果、ほぼ目標に 近いラインで伸ばすことが出来ました。一方、海外売上高は 米州、アジア州で目標を下回る結果となりました。新製品の 投入が遅れたことに加え、東南アジアでの販売体制の整備 や新興国での短納期商談への対応が課題として残りました。 東日本物流センタなどの先行投資の負担もあり、営業利益、 ROEも目標に届きませんでした。この3年間の取り組みは一 定の成果を上げていますが、さらなる収益性改善に向けた 取り組みが必要と考えています。

●2020年度の取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大が各国の医療提供体制 に大きな影響を与えるとともに、国内外において急激な景 気減速が見られ、厳しい事業環境下にあります。当社は、引 き続き従業員の健康維持・安全確保を最優先とした上で、医 療機器メーカとしての供給責任を果たすべく事業活動を推 進するとともに、収益性の改善に取り組みます。

東日本物流センタの設立

2019年11月本格稼働



機器と消耗品の 同梱出荷で 物流コスト削減

(億円)

		(1/2/1)/
	2020年3月期 実績	2020年3月期 経営目標値
売上高	1,850	1,900
国内売上高	1,343	1,350
海外売上高	506	550
営業利益	155	200
ROE	8.3%	12.0%

また、リーマンショック以来の世界的な経済危機を迎える 可能性がある中、厳しい事業環境においても事業と雇用の 継続を守るため、企業体質の一層の強化を図る所存です。 なお、2020年5月に公表を予定していました2030年に向 けた長期ビジョンおよび中期経営計画は、新型コロナウイル スの感染拡大による市場環境の変化を検証した後、今後半 年から1年以内に公表する予定です。

新型コロナウイルス対応の基本方針

- 1. 従業員およびその家族の健康維持・安全確保を最優先とする
- 2. 医療体制の維持のため製品とサービスの供給責任を果たす

2020年度の取り組み

既存事業における収益性の改善

- ●新製品発売スケジュールの遵守
- ●海外事業のさらなる成長
- ●国内事業における顧客価値提案の推進

グローバルでの企業体質の強化

- ●ガバナンス・経営管理体制の強化
- ●IT活用によるサプライチェーンマネジメントの向上

11 NIHON KOHDEN REPORT 2020 NIHON KOHDEN REPORT 2020 12

前中期経営計画の総括と今後の取り組み

●グローバルな医療課題の解決に挑戦

世界的な新型コロナウイルス感染拡大に伴い、生体情報モニタ、人工呼吸器の需要がかつてないほど増えていることから、富岡生産センタでの増産体制構築に取り組んでいます。2019年度に海外市場で発売した重症患者さん向けの気管挿管型人工呼吸器 NKV-550についても、4月下旬に国内での製造販売承認を優先的かつ迅速な審査で取得することができ、同センタでの生産を進めています。米国の日本光電オレンジメッドにおいてもNKV-550の増産に取り

組んでいます。

これほどまでに当社の製品が世界各国で求められる状況はかつてないことです。日々医療の最前線で患者さんの治療に尽力されている医療従事者の皆さまを支援することが当社の社会的使命だと受け止めています。新型コロナウイルス感染症に対応した医療提供体制の整備というグローバルな医療課題の解決に、全社一丸となって取り組みます。

生体情報モニタ・人工呼吸器の生産増強



医療機器メーカとして、

医療の最前線で尽力される医療従事者の皆さまの支援に最善を尽くします

欧州では、3月から新型コロナウイルスの感染が拡大し、特にイタリアやスペインでは感染爆発により医療崩壊を招く事態となりました。当社の現地スタッフは、最前線で感染患者さんの治療にあたる医療従事者を支えるため、マスク・グローブの着用など感染予防対策を徹底した上で、人工呼吸器をお届けしました。スペインの現地マネジャは、次のように述べています。「医療現場がひっ迫する中、営業員が納品した人工呼吸器 NKV-550は、新型コロナウイルス感染症患者さんに装着されました。お客様から感謝いただいたことは、全社員の励みとなっています。」



2020年4月スペインの病院に 人工呼吸器 NKV-550を納品



2020年6月ロンドンの病院に 人工呼吸器 NKV-330を納品



2020年6月スコットランドの病院に 人工呼吸器 NKV-550を納品